

りはる - Re 春 -



訪問リハビリ テーションの ご案内

当院では、退院後の患者さんがより自立した日常生活を過ごせるよう、経験豊かなスタッフによる訪問リハビリテーションを提供しております。確かな技術ときめ細かなサポートで多くの方にご好評をいただいております。当院に入院歴のない患者さんもご利用いただけますので、ぜひご相談ください。

【対象範囲】東淀川区・淀川区内で、病院から半径3km圏内

【提供日時】月～土 9:00～17:00（日・年末年始を除く）

【お問合せ先】淀川平成病院 地域連携室



お寿司が食べられる病院

私たちは栄養状態の改善は疾病治療と同時に行うべき極めて重要な取り組みと位置付け、患者さんの食べる量が少しずつでも増えるよう、様々な工夫を凝らしています。

温度管理や鮮度管理の難しいお刺身やお寿司を普段の病院食として提供するのもその一環です。

食事を通じて患者さんに驚きや嬉しさ、楽しさを提供できるよう取り組んでいます。

この日の献立は【三重県郷土料理】
手こね寿司（まぐろ刺身）がメインです

2024年 9月～12月当院実績

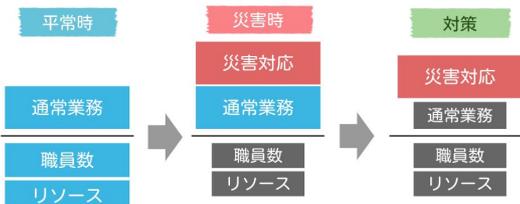
在宅復帰率	重症度割合	重症患者改善割合	アウトカム評価
89.9%	50%	64.65%	62.5

アウトカム評価とは

入院中に効果的なリハビリテーションが行えたかどうか、特定の指数でアウトカムを評価しています。医療保険の基準では、40以上であることが求められています。短い入院期間で生活機能が向上するほど、高い指数が出るようになっています

少なくなるリソースを最大に活かすために

大規模災害発生時は、水や電気といったリソースが使えなくなる一方、落下物による院内の片付けや荷物の上げ下ろし、紙運用による業務など通常業務以外の業務が増えるため、通常状態の運用ではすぐ過重負担となってしまふ



(当面) 止められる・縮小できる業務を洗い出そう

南海トラフ大地震への備え

地域単位で考える自院の事業継続

年2回の防災訓練に合わせて、自院の事業継続（BCP）に関する院内学習会を行いました。

事業継続を考える上でまず大切なことは、**自院の戦力（リソース）と考えられるリスク、地域の中で求められる役割を把握し、それを元に緊急時の活動方針を明確にすること**です。

学習会では、参加したスタッフに対してこれらの情報を共有しながら、初動としてまずどう行動するか、どんな情報の収集が必要か等を周知しました。

南海トラフ大地震のような大規模災害が発生した場合、**病院単体ではなく、地域全体で速やかに機能回復することが求められます**。今後も地域のニーズを収集しながら、自院も素早く、地域も素早く機能回復できるよう、学習や訓練に取り組んでまいります。

病院避難は《本当の最終手段》

助けが来ないなら、みんなで近隣の避難所へ避難したらいいのでは？被災地域の外へ避難したらいいのでは？と思うかもしれませんが…



患者さん全員を院外へ移動させることは、**患者さんにとっても職員にとっても危険が伴う**

- 避難所には患者受入に十分な空間がない
- 療養の継続に必要な環境や医療資器材がない
- 業務の通常再開までに長い時間がかかる
- 他院へ避難出来るのは限られた場合のみ

入院患者の安全確保と療養継続がわたしたちのミッション

最低3日 自助で凌ぐ



淀川平成病院 訪問リハビリテーション

本当に必要なものは何か ～リロケーションダメージによる 不活発を防ぐ～

高齢者が住み慣れた生活の場を離れ、自宅から遠く離れた場所や施設、子ども達の住む場所へ住みかえることをリロケーション（移転）、そして、その環境変化によるADLの低下をリロケーションダメージと呼びます。

当院訪問リハビリテーションでの事例

利用者Aさんは、退院された直後は近くへ買い物に出かけられたり近隣に住む妹さんが訪問されたりするなど、人とのコミュニケーションや社会的交流を持ちながら、日々元気に過ごしておられました。



ところが、事情により引っ越すことになりました。以前と生活環境が変わってしまったことで、買い物に行く機会や妹さんとの交流もなくなり、Aさんは次第に家に引きこもりがちになってしまいました。転居後も訪問リハビリテーションは継続していたAさんですが、外出する機会が少なくなるにつれて、言動にも精神面での不安定さなどが現れるようになっていきました。



このことから、Aさんのご家族やケアマネージャーさんとの話し合いの場で、当院のスタッフがデイサービスの利用を提案しました。デイサービスという社会的な場で活動したり、同じ利用者同士で交流したりすることが、Aさんの居場所や生きがいづくりにつながると考えたからです。

デイサービスを利用するようになったAさんには徐々に活気が戻っていき、やがて以前のように元気に過ごすことができるようになりました。

訪問リハビリテーションで大切なことは、利用者さんが本当に必要としているものが何かを見出すことです。生活場面での運動療法だけでなく、その時々の状態や症状に合わせて社会参加を促したりすることも、訪問リハビリテーションスタッフの重要な役割なのです。

利用者さんが本当に必要としているものは、本人や家族から直接伝えられるものだけでなく、その生活に寄り添うことではじめて分かるものもあります。私たちは、利用者さんの生活に関わる様々な人たちと共に、【必要なもの探し】を続けていきたいと考えています。



病院を出発する訪問リハビリテーションスタッフ

参加
無料

おうちトレーニングで

元気な春を迎えるで!

東淀川区内の3会場で、リハビリの先生(理学療法士)が
自宅でできる簡単な運動・介護予防をお教えます!

C 会場

参加者に運動用
ゴムバンドプレゼント!

令和7年 **2月16日(日)** **10時 ~ 11時**

場所 東淡路地域交流センター

(東淡路1-4-49 図書館建物の隣)

講師 東郷護靖 (淀川平成病院)

定員 **30名** **電話申込** **070-5659-2517** (担当:柴垣)
※電話不通の際は、
折り返しにてご連絡いたします。

※ほか2会場でも実施します。どちらにご参加いただいても構いません!

A 会場 令和7年 **2月1日(土)**
場所 東淀川区社会福祉協議会5階

B 会場 令和7年 **2月8日(土)**
場所 水仙の家 3階

他会場のお問合せはこちらまで → higashiyodogawa.pt@gmail.com

共催：東淀川区理学療法士会 社会福祉法人大阪市東淀川区社会福祉協議会

お電話での
事前申込が
必要です!

リハ"リ"テーション 公開講座の ご案内

当院の理学療法士が、東淀川区のリハビリテーション公開講座で講師を務めます

訪問リハビリテーションを行う理学療法士ならではの視点で【自宅で出来る】
【続けられる】介護予防運動をご紹介します

どなたでもご参加いただけますので、ぜひお誘い合わせの上、お越しください!

患者さんの作品介绍

色とりどりのたくさんのポーチ。当院にご入院中の患者さんがお一人で作られた作品です。一つ一つ丁寧に仕上げられたポーチには、ファスナーの引手にも手作りチャームがついているなど、細かいところまで工夫が凝らされています。



作：ヒロコ様

外来
受付時間

午前 8:30~11:30 (月~土)
午後 13:30~16:30 (月~金)

休診日

土曜PM・日曜祝日
年末年始



医療法人 康生会

淀川平成病院

☎ 06-6326-7100

🌐 yodogawahp.jp ✉ info@yodogawahp.jp

〒533-0033 大阪府大阪市東淀川区東中島6丁目9番3号